

〔風流曲三味線〕色より思ひを掛奉る曼陀羅

さてく、是は現銀に堅いお人様じや、酒の取たもござりますと、戸棚から備前焼の大德利出し、ちろりへうつし、略○下

〔堀川後度狂歌集三〕松蟲

文車庵

淋しさに寝酒の德利ふる比はちろりくと松むしの鳴

〔運歩色葉集登〕得利トクリ入酒トクリ入酒トクリ

〔易林本節用集登〕陶トクリ得利トクリ

〔書言字考節用集七〕陶トクリ酒器トクリ得利トクリ俗字

〔倭訓栞前編十八〕とくり 曇具理の義なるべし、群碎録に、今人呼藏酒器曰曇と見え、壺にも作れ

り、墨莊漫録に、東坡云、新釀甚佳、求一具理、具理南荒人餅罌と見えたり、膽瓶も同じ、又陶器にや、くり反き也、下總の國にてはぼちといふ、

〔物類稱呼器用〕甄トクリとくり 下總にてぼちといふ、この國にて酢ぼち酒ぼちなど、云、

〔和漢三才圖會三十一〕罌トクリ音英 罌トクリ音武 俗云止久利

罌、乃瓶之總名、又備火長頸瓶也、小口罌曰甄トクリ音壁

按、罌子和名未知其據也、形大小不一、而頸細長、民家日用酒瓶也、盛醋或醬油亦良、其背小而蚊蚋塵埃不入易也、南京及朝鮮之作、土輕而不變味、備前印部之產次之、肥前伊萬利之產又佳、如有微臭氣者、能投入水於内、洒淨用銀杏末、和湯可洗、

錫罌子甚華美也、本綱云、置酒於新錫器、浸漬日久、或有毒、蓋錫含砒霜石氣也、舊年者不害、

〔貞丈雜記酒盃七〕一今德利と云物を、古は錫といひける也、むかしはやき物の德利なし、皆錫にて作りたる故すと云し也、

德利
名稱